

平成31年度 学校経営計画 足立区立第十二中学校

校長 上岡 祥邦

1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、広い視野と深い知識、思いやりの心と規範意識をもった心身ともに健康な中学生の育成を目指す。

生徒行動指針 「自ら学ぶ 思いやる 鍛える」

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	(1) 基礎学力の確実な定着を目指す学校 (2) 豊かな心の育成と規範意識の醸成を目指す学校 (3) 生徒、家庭、地域とともに着実に成長していく学校
○児童・生徒像	(1) 毎日の授業と家庭学習にしっかり取り組み、自ら向上しようとする生徒 (2) 礼儀正しく、進んで挨拶することができる生徒 (3) 他人を尊重するとともに、自己肯定感をもつことができる生徒
○教師像	(1) 理論と実践を重んじ、生徒一人一人の能力を伸ばしようとする教師 (2) 職務に真剣に取り組み、生徒からも保護者・地域からも信頼される教師 (3) 常に自己を高めるために研修に取り組む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状

- (1) 「あいさつのできる落ち着いた学校」として定着しつつある。
- (2) 基礎学力の定着が厳しい生徒が存在し、定期考査結果や学力調査通過率にはっきりと表れている。
- (3) 学校行事や生徒会活動・委員会活動等には積極的に取り組み、達成感も高い。
- (4) ジョイントコンサートや環境浄化活動等をとおして、地域や関係保育園・こども園・小学校・高校との連携が定着している。

2 前年度の成果

- (1) 「ハイオアシス運動」等、生徒会が中心となって推進し、積極的にあいさつができるようになってきた。また、学校生活には86%の生徒がほぼ満足している。
- (2) 開かれた学校づくり協議会主催のサタデースクールには、前期28名、後期25名の生徒が参加し、外部講師の指導を得ながら23回実施したが、主体的学習意欲の高揚が図れた。
- (3) 地域や関係保育園・小学校・高校との円滑な連携ができ、健全育成に有効である。

3 前年度の課題

- (1) あいさつのみならず、TPOをわきまえた礼儀作法等をさらに指導する。
- (2) 学習に対して努力が足りないと感じている生徒が26%存在しており、生徒の学習意欲を高める取組を行い、自主的な学習習慣を身に付けさせる。特に数学科の習熟度別学習等の具体的対策を実施する。
- (3) 地域や家庭、関係教育機関との円滑な連携により、健全育成をさらに推進する。

4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		29	30	31	32	33
1	学力向上（基礎・基本の定着と自主的な学習習慣の形成）	◎	◎	◎	◎	◎
2	生徒による主体的な活動の推進	◎	○	○	○	○
3	小中連携を中心とした地域に根ざした教育活動の実践	○	◎	○	○	○

5 平成31年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学力の向上（基礎学力定着と学習習慣の確立）	
A 今年度の成果目標	平成31年度区学力調査目標通過率と年度末の到達目標	
基礎学力定着と学習習慣の確立	区調査通過率65% 年度末区調査正答率今年度版次学年用(30年度) 1年62%(60.6%)2年60%(58.8%)	

B 前年度の取組み内容	
項目	具体的な方策
個別補習の充実	朝 10 分、国・数・英を中心として理・社、読書活動も含めた学習とする。放課後は 20 分、抽出生徒を個別指導する。
学力調査に向けた取組	前年度の区調査の分析を基に傾向と対策による授業改善を各教員が実施し、確認テスト形式で基礎基本の定着を図った。
様々な対策の有機的連鎖の促進	朝・放課後の補充学習、宿題、学習コンテストの関連を強化し各教科 80 点以上とれるまで再テストを実施した。
サタデースクールの強化	ベーシック・アドバンスコースの 2 部制とし 20 名×2 学級体制で自学自習に取り組みながら、基礎基本の定着が必要な生徒には外部講師が個別指導にあたった。
小中連携事業による教員研修	「主体的、対話的で、深い学びの実践」をテーマに教科部会ごとに研究授業を実施した。

C 前年度の成果と課題
学習に対して努力が足りないと感じている生徒が 26%存在しており、生徒の学習意欲を高める取組を行い、自主的な学習習慣を身に付けさせる。特に数学科の習熟度別学習等の具体的な対策を実施する。

D 今年度の目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
別紙 「平成 31 年度 学力向上アクションプラン」参照		

重点的な取組事項－2		生徒による主体的な活動の推進
A 今年度の成果目標		達成基準
生徒が自分たちで学校を良くしようとする意識（愛校心）と自己肯定感をはぐくむ。		「学校生活についてほぼ満足である」という肯定的な意見を 90%以上にする。
B 目標実現に向けた取組		
項目	達成基準	具体的な方策
自己肯定感の高揚	「自分にはよいところがある」という意見を 80%以上にする。	学校生活や行事・部活動等とおして、達成感をはぐくむ。
自発的自治的な活動の推進	取組への積極的な参加、生徒の変容で判断する。	「ハイオアシス運動」「わがままゼロ運動」等への積極的な参加を生徒会が促す。
いじめの根絶	いじめの未然防止、早期対応を行い、いじめ発生ゼロを目指す。	いじめ対策校内委員会を中心に、教職員の共通理解のもと組織として機能させる。
生徒会、委員会活動の活性化	行事・部活動に積極的に取り組んだ生徒の割合を 85%以上にする。	生徒実行委員会を中心に行事を運営させたり、生徒会朝礼時に各委員会の取組を発表させたりする等、主体的な活動を推進する。

重点的な取組事項－3		小中連携を中心とした地域に根ざした教育活動の実践
A 今年度の成果目標		達成基準
小中連携合同研修会を年間 6 回実施し、各教科の教員の授業力向上とともに、生徒理解の連携を図る。 おおやたこども園、大谷田第一保育園・ナーサリースクール大谷田、中川東・大谷田・長門小学校、足立東高校、地域と連携を図り、郷土愛の心を育成する。		小中連携研究授業を各校 1 回ずつと必要に応じた分科会を教科ごとに実施するとともに、児童生徒についての共通理解を図る。 ジョイントコンサート 400 名以上、環境浄化活動 600 名以上の参加人数にする。
B 目標実現に向けた取組		
項目	達成基準	具体的な方策
小中連携合同研修会	年間 6 回＋α 実施	教科ごとの研究授業と協議会・講師を招聘しての研修会を実施
ジョイントコンサート	参加人数 400 名を超える	11/2(土)足立東高校にて実施予定
環境浄化活動	参加人数 600 名を超える	11/24(日)実施予定、PTA・おやじの会協賛